

「滞在」がひらく福祉の可能性

2024年の
滞在ツアー動画

高校生が福祉施設に滞在するツアーの取り組みから

職場体験でも実習でも、ボランティアでもなく、
高校生が福祉施設で「ただ、そこにいる」時間を過ごす、
「福祉施設に滞在するBeingThinkingTour」。
2024年度に中野区の障害者支援施設を舞台に始まったツアーは
今年度は「次世代に福祉施設をひらいていくプロジェクト」の一環として、
東久留米と日野でそれぞれ開催しています。

特別なプログラムを準備するのでもなく、
施設の日常に高校生が入って過ごす2日間。
限られた時間にもかかわらず、
高校生の「福祉」や「施設」へのイメージが変化したり、
それぞれの価値観や常識が揺らぐきっかけになったり。
同じように何気ない高校生の言動から、
ツアーを受け入れた施設や職員が
無意識にしていた利用者との関わりや取組みについて考えさせられたり、
自分の仕事や福祉について見つめ直す機会になったり。
居合わせた人それぞれが変容していく滞在ツアー。

「ただ、そこにいる」というキーワードで、
高校生に施設をひらくことで何が生まれるのか—。
タイパ、コスバが優先されるAI時代に
社会福祉法人だからこそ高校生に、そして社会に生み出せるものとは—。
今年度実施した滞在ツアーを関係者とふりかえりながら、
みんなで探してみる時間を過ごしてみませんか？



日程 2026年3月6日（金）14：30～17：00
（受付開始：14：00～）
会場 セントラルプラザ飯田橋12階会議室
（新宿区神楽河岸1-1）
参加費 無料
対象 福祉施設・事業所、区市町村社協、
行政職員など
定員 60名

申込はこちら→
締切：3月2日(月)



研修当日の内容

「ただ、そこにいる」を知る

トークセッション

「"滞在"をキーワードに高校生に施設をひらくことで生まれるもの」

東久留米、日野それぞれで開催された滞在ツアーはどんな様子だったのか。
参加した高校生たちは「ただ、いる」ことを通じて何を感じ、どんな時間になったのか。
滞在ツアーを受け入れた施設にとってはいったいどんな時間であったのか。
「ただ、いる」×「福祉施設」×「高校生」によって生み出されるものとは—。

登壇者

- 小松理虔さん/ヘキレキ舎代表（滞在ツアーin東久留米コンダクター）
- 青木 彬さん/一般社団法人藝と（滞在ツアーin日野コンダクター）
- 加藤 甫さん/写真家（滞在ツアーin東久留米・日野での滞在を撮影）
- ふくひらプロジェクト Beらぼ*メンバー
都内高校教諭、区市町村社協職員、受入れ施設等福祉関係者

「ただ、そこにいる」を考える

グループワーク

「"滞在"がひらく福祉の可能性を探る」

それぞれの話を聞いて、どんなことを感じたのか。
「ただ、そこにいる」をキーワードに、福祉施設を高校生にひらくことはどんな意味を持つのか。
自分の施設や地域だったら、こんな滞在ツアーができるかも...?
居合わせた人たちといっしょにその可能性を模索してみる。

*次世代に福祉施設をひらいていく（ふくひら）プロジェクトとは

2025年度からはじまった「次世代に福祉施設をひらいていくプロジェクト（通称：ふくひらプロジェクト）」は、高校生に向けて、「滞在」をキーワードに福祉施設をひらくことについて、多様な関係者による推進会議（通称：Beらぼ）を設置したり、滞在ツアーを実践したりしながら、この企画の本質や価値、可能性について発信しながら、各地域や施設で取り組みが少しずつ広がることをめざしている。

Beらぼには福祉関係者のほか、区市町村社協、都内高校教諭、アート関係者、地域活動家など、多様な立場の関係者が参加し、企画について考え続けている。

<研修会事務局>

東京都地域公益活動推進協議会 事務局

社会福祉法人東京都社会福祉協議会 福祉部 経営支援担当

電話番号：03-3268-7192/E-mail：tky-koueki@tcsw.tvac.or.jp



東京都地域公益活動
推進協議会 HP



東京都地域公益活動推進協議会
公式キャラクター
つつまる